

に高い関心を持つているという現状がある。

答弁(教育部長)

図書館機能の充実を図り、利便性を高めるよう努めている。

答弁(市長)

一般開放事業廃止の原因を分析し、真剣に考えていきたい。

質問

読書教育日本一の数値目標は、本に親しむ数値で良いのか。それならば一つの目安としてやっていただきたいと思う。小中学生の読書に対する関心が高いのはなぜか。

答弁(指導課長)

朝の読書の時間を設けていることが、読書のきっかけとなっている。

答弁(市長)

小中学校全校への司書の配置、長塚節文学賞の2つがあると思う。

質問

市立図書館にこだわらず、学校も含めて施設の充実を図っていただきたい。

答弁(市長)

石下総合福祉センターに図書スペースを構築する構想を考えている。

質問

滞在型図書館とは。

答弁(図書館長)

食事や休息スペースを設け、貸出のみでなく滞在型の利用者をとどめたい。

質問

どこにそのスペースをつくるのか。二水会館か。

答弁(教育部長)

現在検討段階である。

質問

図書館増設は、箱物はつくらないとの公約に反するのではないか。

答弁(市長)

すべてつくらないとは言っておらず、必要な箱

ごみ収集について尋ねる(総括)

中村 博美 議員

質問

ごみ処理費用は年々増加する一方であるため、市民と一緒にごみ減量を市としても何か打ち出し、取り組みたいと考える。

①市民一人あたりのごみ処理費用は、赤ちゃんから大人までいくらになるか、また、それを市民に知らせ、減量の必要があるが何か取り組みはあるか。

物はつくる。

質問

施設の充実など、ぜひ検討してほしい。また、具体的な施策の推進をお願いする。

(その他の質問)

○国民健康保険のカードについて(保険証)



市立図書館

⑤ プラ資源の処理方法を尋ねる。

答弁(市民生活部長)

①平成23年度は、市全体で1人当たり約1万125円である。ごみ減量化推進のため、生ごみ処理容器の購入費補助、資源回収の報奨金制度がある。広報等により、減量化、再資源化への推進を図っていく。

②資源物の売り払い代金は常総広域の歳入になっているが、最終的には構成市の広域負担分に反映されている。古紙、古布等は市が単独で資源化を行い、市の歳入となっているが、収集を業者に委託しているため委託料が発生する。

③調査した県内14の1部事務組合等のうち、組合の歳入になっているところが10カ所、市町村の歳入になっているところが4カ所。

④報奨金の対象に入っているが、回収は各団体の判断になる。

⑤環境センターで係員が選別した後、リサイクル協会と契約している業者で処理される。

再質問

どうしてスチール、アルミ缶などは直接売り払えないのか。小中学校や地域で回収しているのか。プラ資源は広域で売り払っているのか。

再答弁(生活環境課長)

古紙、古布は常総広域で集めるものに入っていないため、市で業者に売っている。スチール、アルミ缶は常総広域の収入になるが、結果的に市に還元される。空き缶を回収している団体はある。プラ資源は処分費用がかかっている。

再々質問

収集日の周知をお願いする。資源物の回収を学校、地域単位での回収に切りかえる努力をしていただきたい。

(その他の質問)

○男女共同参画の推進について尋ねる



プラ容器の一例